

令和 2 年度使用

小学校用教科用図書研究資料

音 楽

宮崎県教育委員会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	<p>(1) 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するために、基礎・基本となる精選された教材が6年間系統的に配置され、学んだことを生かすことのできる選択可能な教材が各学年に配置されており、各学校のカリキュラムに応じることができるような工夫が見られる。</p> <p>また、児童が思いや意図をもちながら音楽活動を行えるように、教材の特性を生かして関連する内容へつながる題材の構成・配列がなされており、表現と鑑賞の活動が効果的に組み合わせられるような工夫がなされている。</p>
27 教 芸	<p>(1) 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するために、基礎・基本となる精選された教材が6年間系統的に配置され、学びをつなげたり、広げたりすることのできる補充教材が各学年に配置されており、各学校のカリキュラムに応じることができるような工夫が見られる。</p> <p>また、児童が思いや意図をもちながら音楽活動を行えるように、教材の特性を生かして関連する内容へつながる題材の構成・配列がなされており、表現活動、鑑賞活動ともに対話的な学びが深められるような工夫がなされている。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	<p>(1) 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年に「まなびナビ」「学び合う音楽」「学びのプロセス」が掲載され、学習の進め方について分かりやすく示されている。中・高学年では、児童が気付いた要素等を書き込む「メモ欄」が新設され、主体的に音楽に向き合えるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、動物の鳴き声や自然の音から、関連する楽曲へ展開したり、1音のみで演奏できるリコーダーの楽曲があったりするなど、他の分野や領域と関連させながら学習できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、音楽のよさや面白さに気付き、聴き深める力を高めるための題材や、学びを生かすための音楽づくり「音のスケッチ」を設定するなどして、他者とかかわりながら音楽活動ができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、学びの中で協働する楽しさを味わえるような題材を配列したり、我が国及び諸外国の音楽について触れる教材を設定したり、歌唱曲の歌詞などの内容を忠実に表現した写真を掲載したりするなど、人々の生活と音楽を結びつけるような資料や教材の工夫が見られる。</p>

発 行 者	概 評
27 教 芸	<p>(1) 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年に「学びの地図」「ふりかえりのページ」、イラスト付きのコラムが掲載され、学習の進め方について分かりやすく示されている。また、全学年に音楽を形づくっている要素や題材のねらいが明示され、主体的に音楽に向き合えるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、学習したリコーダーの音のみを使った練習曲があったり、学習した歌唱曲からリズム遊びにつなげたりするなど、学んだ音や音楽を関連させながら学習できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、友だちがつくった旋律のよさや違いを比較しながら、聴き深める力を高めるための題材や、学年間の系統性を生かした音楽づくりを設定するなどして、ことばや音による対話を通した音楽表現ができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、社会の中の音や音楽が果たす役割について気付かせるような題材を配列したり、関連する資料を掲載したり、我が国及び諸外国の音楽について触れる教材を設定したりするなど、人々の生活と音楽を結びつけるような資料や教材の工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	<p>(1) 教科書は低学年がA B判、中・高学年はA B判より高さが2 c m大きくなり、全学年軽量化が図られている。</p> <p>表紙は、該当学年で学習する内容のイラストを用い、学習の見通しがもてるような工夫がなされている。巻末には、全学年「音楽ランド」で多種多様な楽曲が設けられ、教科横断的な扱いができるような教材の工夫が見られる。</p> <p>我が国や郷土の音楽については、4年生から和楽器を使った教材の導入や、巻頭への国内外で活躍する日本の音楽家からのメッセージの掲載といった、児童の興味・関心を高めるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童が分かりやすく学ぶために、楽譜については、発達の段階に応じた絵や図での楽譜から五線譜に移行したり、復習やトレーニングができるような透明シートを活用したりするなど、読譜の定着のための資料の工夫が見られる。</p> <p>器楽の技能習得については、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入において、児童が着実に技能を身に付けられるように、指の置き方や楽器の使い方などを、実物に近い大きさの写真で示すといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 児童の学びを深めるために、全学年の目次の右下に、QRコードが掲載されており、楽器の演奏の仕方や、作曲者のメッセージの動画等が参照できるといった工夫が見られる。</p> <p>楽曲のイメージを広げ楽しく音楽活動ができるように、折り込みでの鮮明な写真や、実物とイラストの合成写真などの工夫が見られる。</p>

発 行 者	概 要
27 教 芸	<p>(1) 教科書は全学年同じA B判であり、全学年輕量化が図られている。</p> <p>表紙は、該当学年で学習する内容のイラストを用い、学習の見通しがもてるような工夫がなされている。巻末には、全学年「みんなで楽しく」で多種多様な楽曲が設けられ、教科横断的な扱いができるような教材の工夫が見られる。</p> <p>我が国や郷土の音楽については、3年生から和楽器を使った教材の導入があり、全学年の裏表紙には伝統芸能の写真を載せることで、児童の興味・関心を高めるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童が分かりやすく学ぶために、楽譜については、発達の段階に応じた絵や図での楽譜から五線譜に移行し、低・中学年の必要なページには音階を縦書きで示し、音の高低を意識付けできるような資料の工夫が見られる。</p> <p>器楽の技能習得については、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入において、児童が着実に技能を身に付けられるように、指の置き方や楽器の使い方などを、実物に近い大きさの写真で示すといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 児童の学びを深めるために、必要なページにQRコードが掲載され、楽器の演奏の仕方の動画が参照できたり、関連内容のウェブサイトが示されたりといった工夫が見られる。</p> <p>楽曲のイメージを広げ楽しく音楽活動ができるように、見開きの鮮明な写真や、実物とイラストを発達の段階に応じて掲載する工夫が見られる。</p>

【データの観点】

種目 音楽

※ 表内の数値は、音楽部会で設定した内容項目により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的にとらえるのではなく、具体的な内容と合わせて各発行者の特徴をとらえる参考とすること。

視 点		発行者		17 教出	27 教芸	
共通	① 総ページ			8 1	8 7	
	② 重さ	合本 (グラム)	1 ~ 2 年 1 7 8	3 ~ 6 年 2 0 4	全 学 年 1 8 3	
		別冊 (グラム)				
③ サイズ	縦(cm)×横(cm)	1 ~ 2 年 25.4×20.8	3 年 以 上 27.4×20.8	全 学 年 25.15×21		
種 目 別	④ QRコードによる資料数		1 2		1 1	
	⑤ 教材数		4 7		4 8	
	⑥ 同一楽曲で領域の重なりのある数		3		1 ~ 2 年 3	3 年 以 上 0
	⑦ 歌唱	教材数	2 8		2 3	
		割合 (%)	5 9 . 6		4 7 . 9	
	⑧ 器楽	教材数	1 1		1 2	
		割合 (%)	2 3 . 4		2 5 . 0	
	⑨ 音づくり	教材数	6		5	
		割合 (%)	1 2 . 8		1 0 . 4	
	⑩ 鑑賞	教材数	9		8	
割合 (%)		1 9 . 1		1 6 . 7		

①総ページ数は、表紙や口絵、折り込みも含めた全体のページ数

⑥表現領域と鑑賞領域の重なりがあるものの数である。

⑦～⑩の教材数の合計は、⑤の教材数と等しくならない。同一教材で歌唱と器楽、器楽と鑑賞といった、他分野との重なりがあるためである。